

川崎市 地球温暖化対策推進基本計画

～CCかわさきエコ暮らし・未来へつなげる30プラン～

30施策により2030年度までに30%以上の温室効果ガス削減を目指して

概要版

【計画期間 2018年～2030年】



ろじいちゃん

のみいちゃん

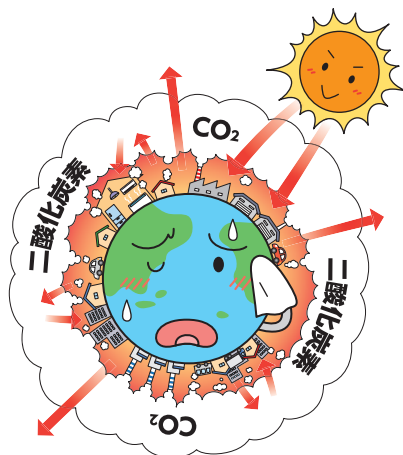
エコちゃんず

エコちゃんず

頭の上に葉っぱの「ろじいちゃん」(エコロジー)
頭の上にお財布の「のみいちゃん」(エコノミー)
「低炭素」「資源循環」「自然共生」に配慮した
「エコ暮らし」を目指して、日々活動している。

地球温暖化とは

二酸化炭素(CO₂)などの熱を吸収する性質を持つ温室効果ガスが、石炭や石油などの化石燃料を生活や経済活動などに利用することに伴い増加する一方で、森林の破壊等に伴って温室効果ガスの吸収量が減少することにより、大気中の温室効果ガスの濃度が高まり、地球の気温が上昇する現象です。

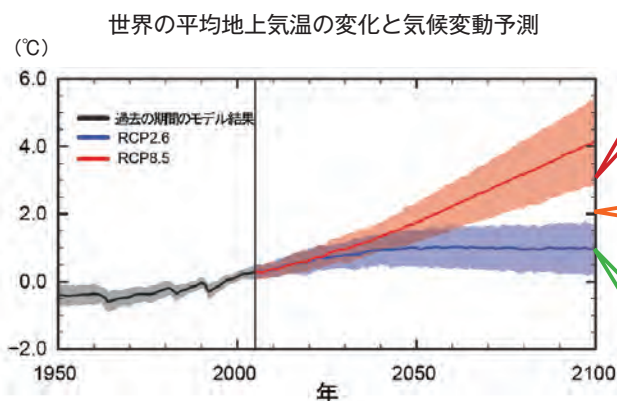


地球温暖化の現状と対応の必要性

陸域と海上を合わせた世界の平均地上気温は、1880年～2012年の期間に0.85℃上昇し、大気や海洋の温暖化、雪氷の量の減少、海面水位の上昇、海洋酸性化等、世界中で広範囲にわたる影響を及ぼしています。

2081年から2100年までの世界の平均地上気温は、厳しい温暖化対策を取らなかった場合で2.6℃から4.8℃上昇し、温室効果ガス排出量を2100年までにほぼゼロまたはマイナスにするケースでは、気温上昇を1.7℃未満に抑えることができるとされています*。

※国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書による1986年から2005年までの20年間の平均からの変化



出典：IPCC第5次評価報告書第1作業部会報告書に加筆

3℃上昇：大規模で不可逆的な氷床の消失により
海面上昇等のリスク

2℃上昇：北極海水やサンゴ礁に非常に高い
リスク

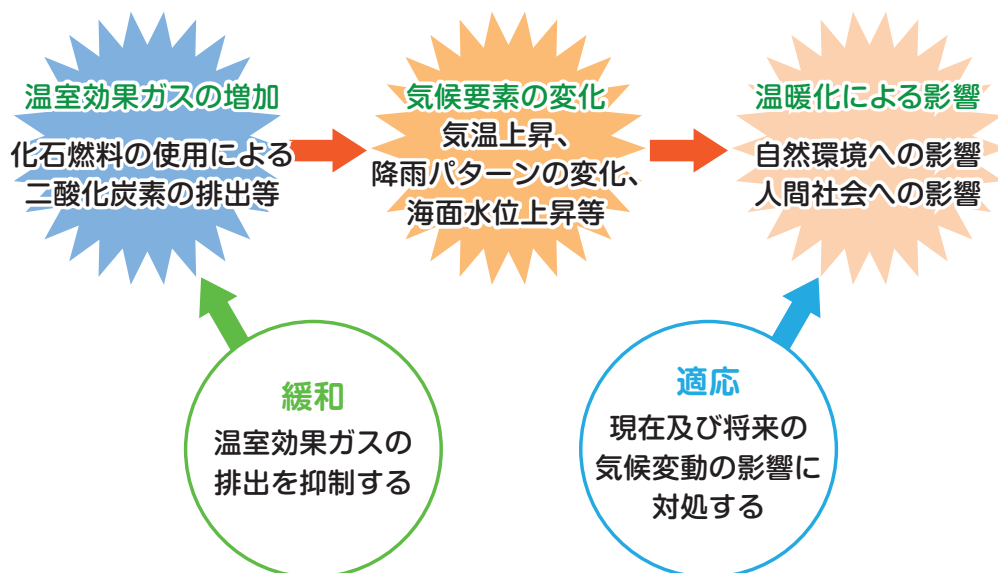
1℃上昇：極端現象（熱波、極端な降水、沿岸域
氾濫等）のリスク

緩和策と適応策

気温上昇、異常気象の増加、海面上昇などの温暖化の影響は、たとえ温室効果ガス的人為的な排出が停止したとしても、何世紀にもわたって持続するだろうと予測されています*。

地球温暖化への対応にあたっては、地球温暖化の原因と考えられている温室効果ガスの排出抑制等を行う「緩和策」の取組だけでなく、既に現れている影響や中長期的に避けられない影響に対する「適応策」の取組を進めていくことが求められています。

※IPCC第5次評価報告書



出典：環境白書平成28年度版



川崎市の状況

川崎市における気候変動予測（21世紀末）

川崎市周辺の年平均気温は上昇 現在（2016年度）は16.7℃

厳しい温暖化対策を取った場合 …………… 現在よりも0.4～1.6℃上昇

厳しい温暖化対策を取らなかった場合 …… 現在よりも3.2～5.0℃上昇

⇒鹿児島県屋久島（尾之間）の平均気温と同程度

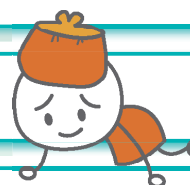


川崎市周辺の真夏日の日数は増加 現在は年間約40日程度

厳しい温暖化対策を取った場合 …………… 約16日の増加

厳しい温暖化対策を取らなかった場合 …… 約62日の増加

短時間強雨の発生頻度は増加



海面は上昇

厳しい温暖化対策を取らなかった場合、0.45～0.82m上昇※

※IPCCによる世界平均での海面上昇量の予測（RCP8.5シナリオの場合）

川崎市における市民・事業者・行政のこれまでの取組

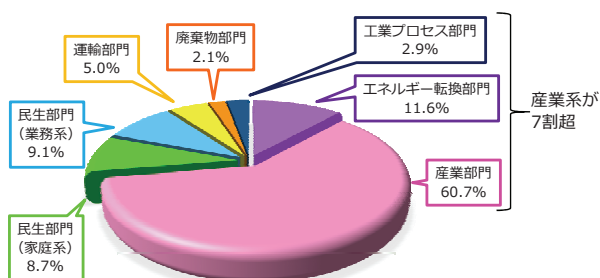
- 市民・事業者・行政がそれぞれ温室効果ガス排出量の削減に向けた取組を実施
- 市民・事業者・行政が協働で普及啓発等を実施
- 住宅用太陽光発電設備等への補助事業などを実施し、太陽光発電設備容量が2016年度末において、約25倍（2005年度比）に増加
- 市内に蓄積する優れた環境技術・環境産業を活かした取組を推進

川崎市における温室効果ガスの排出量

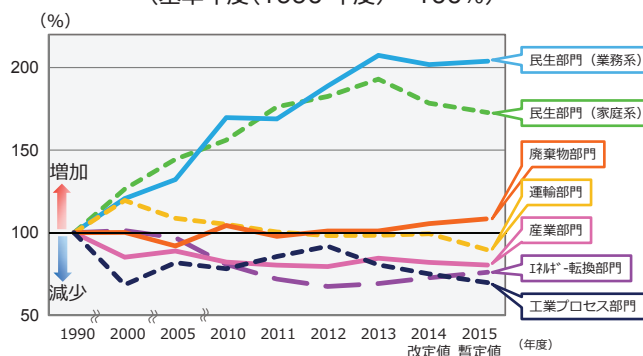
- 川崎市の2015年度における温室効果ガス排出量（暫定値）は、基準年度※比16.8%減で、順調に減少
- 二酸化炭素の部門別排出量は、工業プロセス部門、エネルギー転換部門を含めた産業系からの排出が7割超
- 基準年度からの増加率は、産業系が減少する一方、民生部門（家庭系）、民生部門（業務系）で大幅に増加

※二酸化炭素、メタン及び一酸化二窒素が1990年度、それ以外が1995年度

二酸化炭素排出量の部門別構成比
（2015年度暫定値）



部門別の二酸化炭素排出量基準年度比の推移
（基準年度（1990年度）＝100%）



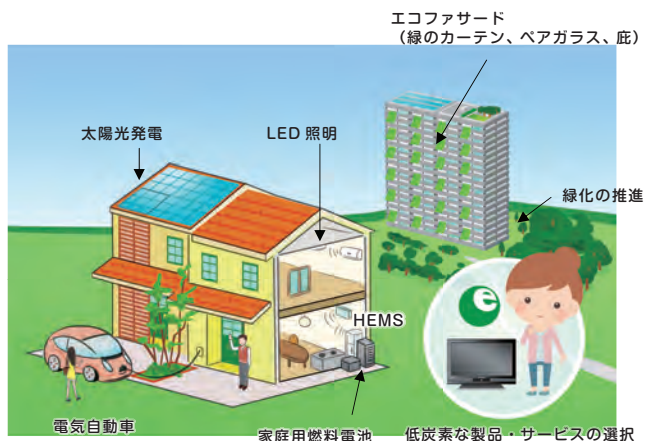
将来的に目指すべき低炭素社会のイメージ（2030年のまちの姿）

市民生活のイメージ

エコ暮らし（スマートライフスタイル）が定着し、エネルギーの最適利用などにより、温室効果ガス排出量が削減されるとともに、気候変動の影響への適応策が進み、市民の健康で快適な暮らしや地域経済の活性化が図られています。

波及効果の例

- 健康・快適で誰もが暮らしやすい生活環境の実現
- 連携・協働による地域活動の活発化

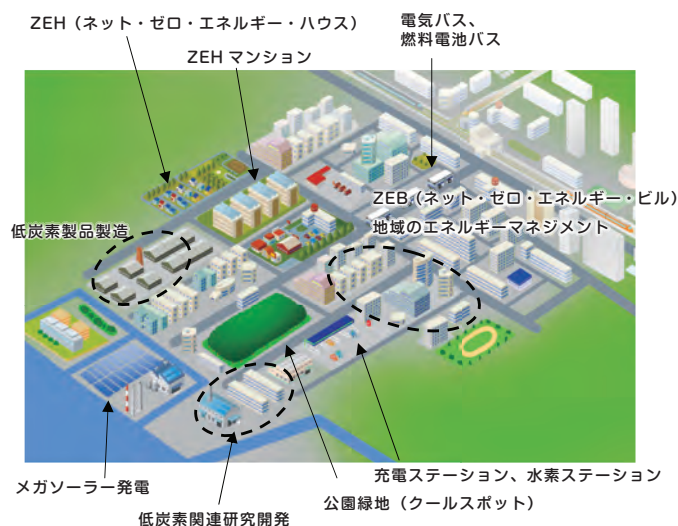


都市のイメージ

都市の機能において、エネルギー・マネジメントシステムをはじめ、ICTやデータの利活用による創エネ・省エネ・蓄エネの取組が進められるとともに、都市機能がコンパクトに集積し、一人ひとりが豊かさを実感できるスマートなまちづくりが行われています。

波及効果の例

- 市民生活の利便性や質の向上
- 交通流の円滑化、移動時間短縮
- 緑にふれあえる場の確保、生物多様性の保全
- 災害時における都市の防災機能の強化



産業のイメージ

川崎の強みである環境技術の利活用を通じて、温室効果ガス排出量のさらなる削減を実現しています。

波及効果の例

- エネルギーと資源の効率的利用による経済性の向上
- 産業及び地域経済の活性化

環境技術・環境産業を通じた貢献のイメージ

国際的な環境活動や環境技術の移転を通じ、地球全体での温室効果ガス排出量削減に貢献する取組が活発化しています。

波及効果の例

- 新たな産業の創出による地域経済の活性化
- 国際貢献による都市のイメージ向上
- 環境技術による市民生活の利便性や質の向上



連携・協働のイメージ

市民・事業者・行政の各主体がその重要性を認識し取り組むとともに、各主体の連携・協働の取組が一層進んでいます。

波及効果の例

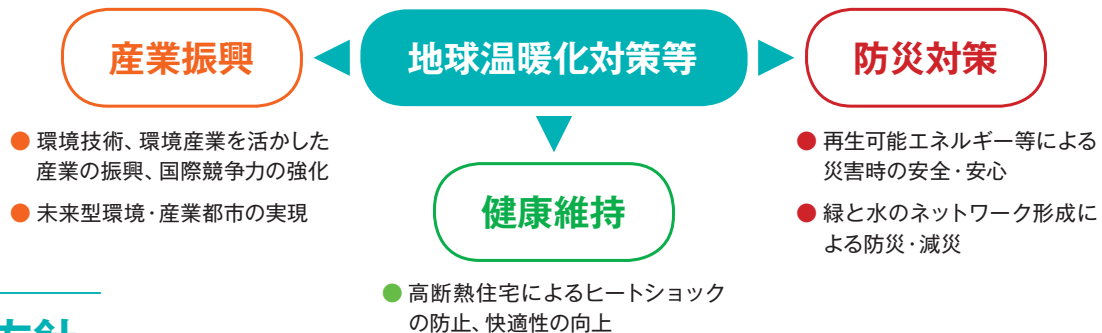
- 連携・協働による地域活動の活発化
- 地域のつながりや家族のきずなの深化
- まちづくりへの市民参画の促進



－ 基本理念 －

マルチベネフィットの地球温暖化対策等により 低炭素社会を構築

地球温暖化対策等によって得られるマルチベネフィットの例

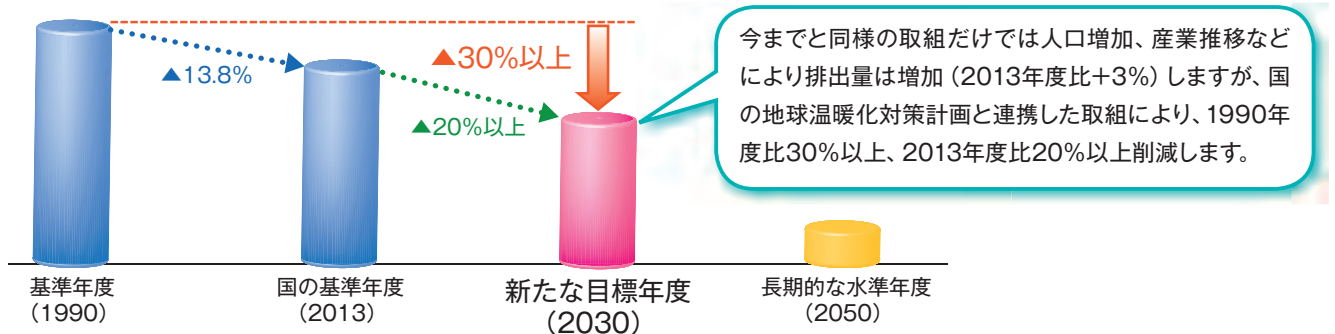


基本方針

- ① 温室効果ガス排出量の削減を進める
- ② 再生可能エネルギー等の導入とエネルギーの最適利用を進める
- ③ 気候変動への適応を進める
- ④ 環境技術・環境産業により貢献する
- ⑤ 市民・事業者・行政の連携・協働を進める

－ 削減目標 －

2030年度までに1990年度比30%以上の 温室効果ガス排出量の削減を目指す



8つの基本的方向ごとの12の施策の方向性と30施策

I 低炭素で快適な市民生活のまち

- 川崎市地球温暖化防止活動推進センターを核に、川崎市地球温暖化防止活動推進員や事業者などの多様な主体の協働のもと、市民や事業者の節電・省エネなどの環境配慮行動を実践する「エコ暮らし」を広く発信します。
- 環境に配慮したライフスタイルや気候変動への適応の理解を深めるとともに、環境配慮行動の実践や環境にやさしい商品・サービスの選択を促すため、将来を担う子どもから大人まで、ライフステージに応じた環境教育・環境学習を推進します。

施策の方向性

- 1 市民生活における温室効果ガス排出量削減の推進

施策 ① エコ暮らし（スマートライフスタイル）の推進

施策の方向性

- 2 環境教育・環境学習の推進

施策 ① 環境教育・環境学習の推進



かわさきエコ暮らし未来館
(川崎区浮島町)



王禅寺エコ暮らし環境館
(麻生区王禅寺)

Ⅱ 低炭素な事業活動のまち

- 事業所における再生可能エネルギーなどの利用、エネルギーの効率的な利用を促し、低炭素型のビジネススタイルの普及、定着を図り、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の削減を推進します。
- 市役所が、一事業者としてエネルギー使用量の削減、災害時等にも活用できる再生可能エネルギーの優先的な利用や環境に配慮した契約や物品の調達等を実施し、率先した取組を推進します。
【目標：2030年度までに市役所の事業活動に伴う温室効果ガス排出量を2013年度比で23%削減する】

施策の方向性

1 事業活動における温室効果ガス排出量削減の推進

施策

- ① 大規模事業者における温室効果ガス排出量の削減の推進
- ② 中小規模事業者における温室効果ガス排出量の削減の推進
- ③ スマートコンビニート等の推進

施策の方向性

2 市役所の率先取組の推進

施策

- ① 市施設における温室効果ガス排出量の削減の推進
- ② 公用車における次世代自動車の導入等の推進
- ③ 環境に配慮した契約や物品購入の推進



Ⅲ 再生可能エネルギー等の導入とエネルギーの最適利用による低炭素なまち

- ICTを活かしたエネルギーマネジメントシステム（EMS）などによる効率的なエネルギー利用や、災害時にも有効な再生可能エネルギー、蓄電池、コージェネレーションシステムの導入によるエネルギーの自立分散を推進するとともに、将来の温室効果ガスの大幅な削減の可能性につながる水素などの次世代エネルギーの導入を推進します。
- 高効率機器の導入とともに、ヒートショック対策等にも寄与する高断熱、高気密、そして長寿命等の環境に配慮した住宅・建物の建築などにより、建築物のエネルギー性能の向上を進めます。

施策の方向性

1 再生可能エネルギー等の導入とエネルギーの最適利用の推進

施策

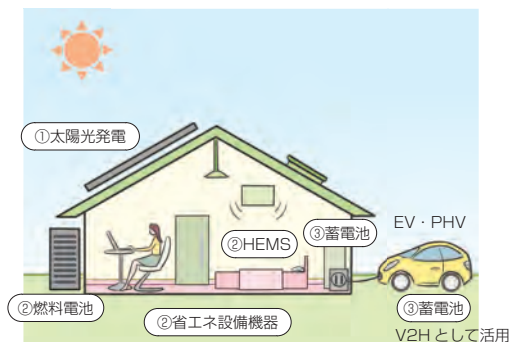
- ① エネルギーの地産地消・自立分散の推進
- ② エネルギーの最適利用の推進
- ③ 次世代エネルギー等の導入の推進

施策の方向性

2 建築物のエネルギー性能の向上

施策

- ① 新築建築物の省エネ化・ゼロエネ化の推進
- ② 既築建築物のエネルギー性能の向上の推進



① 創エネ

エネルギーを創る

② 省エネ

エネルギーを減らす

③ 蓄エネ

エネルギーを蓄える

エネルギーの地産地消・自立分散、
建築物の省エネ化・ゼロエネ化のイメージ

Ⅳ 低炭素な交通環境のまち

- 市民や川崎を訪れる人が快適、便利に利用できる低炭素な交通環境のまちの構築を目指します。

施策の方向性

1 交通における温室効果ガス排出量削減の推進

施策

- ① 環境にやさしい交通ネットワークの整備の推進
- ② 公共交通機関の利便性向上の推進
- ③ 次世代自動車等の普及の推進



川崎マリエンで水素を充填する
燃料電池自動車（FCV）

V 多様なみどりが市民をつなぐまち

- 市民・事業者・行政などさまざまな主体の連携により、緑と水のネットワークを形成することで、地球温暖化対策やヒートアイランド現象の緩和にくわえ、防災・減災にもつなげていきます。

施策の方向性

1 緑地の保全・緑化等の推進

施策

- ① 樹林地・農地の保全と緑化の推進
- ② 公園緑地の整備の推進
- ③ 水辺空間の活用の推進



モリオン
市民 100 万本植樹運動の
イメージキャラクター



事業所の緑化による風の道の形成

VI 低炭素な循環型のまち

- 市民・事業者・行政による3R（リデュース・リユース・リサイクル）、とりわけ環境負荷の低い2R（リデュース・リユース）を推進するとともに、廃棄物発電などごみ焼却時の熱エネルギーを最大限活用し、低炭素な循環型のまちの形成を推進します。

施策の方向性

1 循環型社会形成の推進

施策

- ① 市民生活における廃棄物の3Rの推進
- ② 事業活動における廃棄物の3Rの推進
- ③ 廃棄物処理における温室効果ガス排出量の削減の推進



食品ロス削減の取組の一つである食べきり協力店制度

VII 気候変動に適応し安全で健康に暮らせるまち

- 気候変動適応策や、気候変動に関する科学的な情報の収集・提供を行い、市民が安全で健康に暮らせるまちの形成を推進します。

施策の方向性

1 気候変動適応策の推進

施策

- ① 治水・水害対策の推進
- ② 熱中症対策の推進
- ③ 感染症対策等の推進
- ④ 暑熱対策（ヒートアイランド対策含む）の推進
- ⑤ 気候変動に関する観測、分析、調査研究等の推進



緑のカーテン
(高津区役所)

VIII 環境技術・環境産業で貢献するまち

- 環境技術・環境産業による国内外への貢献を進め、低炭素社会の構築を先導します。
- 将来の大幅な温室効果ガス排出量削減に向けて、地球温暖化対策等に資する技術の研究・開発を支援します。

施策の方向性

1 環境技術・環境産業による貢献の推進

施策

- ① 環境技術の普及と次世代技術の開発等の推進
- ② 環境技術を活かした国際貢献の推進

施策の方向性

2 環境に関する総合的な研究の推進

施策

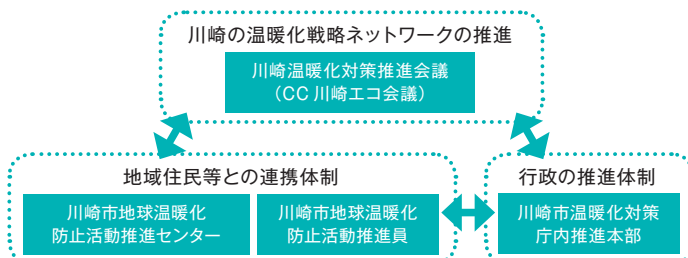
- ① 環境に関する総合的な研究の推進



自立型水素エネルギー供給システム
(JR 武蔵溝ノ口駅)

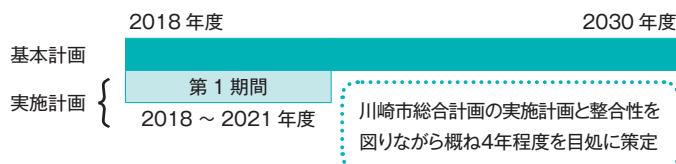
推進体制

「川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）」、「川崎市地球温暖化防止活動推進センター」及び「川崎市地球温暖化防止活動推進員」、市の「川崎市温暖化対策庁内推進本部」が連携しながら取組を推進します。



川崎市地球温暖化対策推進実施計画

具体的に実施する措置等は、概ね4年ごとに策定する「実施計画」により推進します。



CO₂を削減するために一人ひとりができること

エアコンの設定温度に気をつける。

- 冷房温度を27℃から28℃へ高く設定すると
年間で約820円の節約
CO₂削減量 17.2kg
- 暖房温度を21℃から20℃へ低く設定すると
年間で約1,430円の節約
CO₂削減量 30.3kg



テレビを見ないときは消す。

- 1日1時間見る時間を減らすと
(液晶の場合)
年間で約450円の節約
CO₂削減量 9.6kg
(プラズマの場合)
年間で約1,530円の節約
CO₂削減量 32.3kg



パソコンを使わないときは電源を切る。

- ノート型の場合
1日1時間利用時間を減らすと
年間で約150円の節約
CO₂削減量 3.1kg



電球型LEDランプに取り換える。

- 電球型LEDランプに取り換えると
年間で約2,410円の節約
CO₂削減量 50.8kg



冷蔵庫にものをつめ込み過ぎない。

- つめ込んだものを半分に減らすと
年間で約1,180円の節約
CO₂削減量 25.0kg



冷蔵庫の設定温度は適切にする。

- 設定温度を「強」から「中」にすると
年間で約1,670円の節約
CO₂削減量 35.2kg



シャワーは不必要に流したままにしない。

- お湯を流す時間を1分間短くすると
年間で約3,180円の節約
CO₂削減量 29.0kg



入浴は間隔をあけずにはいる。

- 放置して冷めたお湯を追い炊き
(1日1回) することをなくすと
年間で約6,530円の節約
CO₂削減量 87.0kg



トイレを使わないときは 温水洗浄便座のフタを閉める。

- 便座のフタを開けたままにしたときとくらべると
年間で約940円の節約
CO₂削減量 19.9kg



エコドライブをする。

- ① ふんわりアクセル ② 加減速の少ない運転
③ 早めのアクセルオフ
- エコドライブをすると
年間で約20,430円の節約
CO₂削減量 304.0kg



出典：経済産業省資源エネルギー庁「家庭の省エネ徹底ガイド春夏秋冬」より

川崎市地球温暖化対策推進基本計画【概要版】

2018年3月発行

発行 / 川崎市 編集 / 環境局地球環境推進室 〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
電話：044-200-2405 FAX：044-200-3921 Eメール：30tisui@city.kawasaki.jp
川崎市ホームページ：http://www.city.kawasaki.jp

川崎市 温暖化対策 検索

270
古紙配合率70%
再生紙を使用しています